



昭和38年、睦美、麻生田、三上の3つの小学校が合併して誕生。



トイレの入口には男女共用の大きなアイランドタイプの洗面台が。



廊下とつながった多目的ゾーン。オープンな図書館はみんなのいこいの場。

# みんなの夢がふくらむ、 明るく楽しい学校トイレ 教職員トイレも 使い勝手を追求

休み時間を知らせるチャイムが鳴ると、大勢の子どもたちがトイレ前の洗面台に集まってきました。トイレに来た子どもも、手を洗いに来た子どもも、男女共用の大きなアイランド式洗面台を囲み、いつのまにか隣の子とおしゃべりを始めます。ワイワイガヤガヤ、トイレ前の空間は子どもたちの恰好のコミュニケーションの場になっています。

「これまでのトイレのイメージは行きたくない場所。そうではなくて、行きたくない、楽しいトイレにしたいと思いました。そのため、壁や鏡を見ながら黙々と手を洗ったり歯を磨いたりする横並びの洗面台をやめ、友だちの顔を見る時間を増やせる大きさの丸いアイランド式に。予想通り子どもたちのたまり場になっていたのでうれしいです」  
(市教育委員会・塩野谷さん)

ほかに、トイレを楽しくするための演出として、ブースの扉をカラフルにしたり、真っ白な壁の上部に木質を取り入れたりしました。かつてのトイレにあつた無機質な冷たい印象は払拭され、子どもたちが笑顔になるトイレが完成しました。

職員用トイレも、ブース内に棚が設けられたり、温水洗浄便座が採用されるなど、使い勝手

## 学校トイレの最新現場事例2015

愛知県豊川市立

# 東部小学校



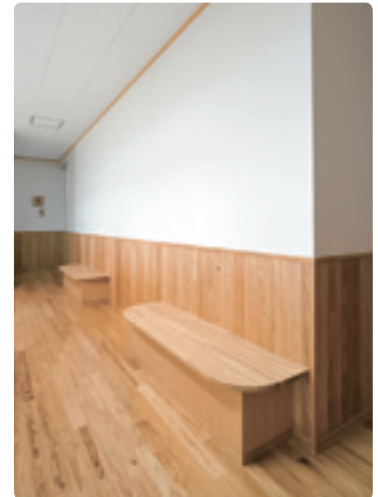
女子トイレはドアの色をカラフルに。お気に入りの色のブースを選べるのが楽しい。



ケガをした子どもが使える手すりつきブース。温水洗浄便座の操作もわかりやすくリモコン式。



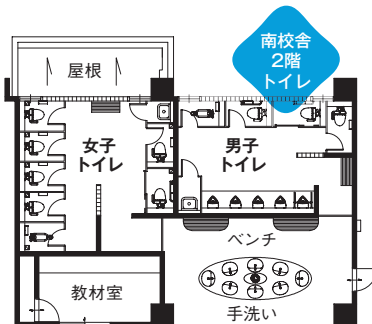
トイレ空間の天井部に木質を配するなど、「トイレらしくない空間」を目指した。



洗面台の後ろには大きな木製ベンチ。男子寄り、女子寄りと2つが設置されている。



乾式清掃で水を使うことが少ないため、掃除用流しは浅いコンパクトサイズを。



トイレの前に男女共用のベンチやアイランドタイプの洗面台を配置。男子や女子に関係なくみんなが集まるコミュニケーションの場所になっている。



教職員や来客用トイレはドアの外側にも仕切りをつけて視線を遮る工夫が。



保健室前トイレは荷物が置ける棚を設置。





きれいなトイレを維持していきますと、豊川市立東部小学校・竹田寛校長。



トイレは作った後が大切と語る豊川市教育委員会・塩野谷宜和さん。



多機能トイレは職員室や保健室に近い場所に配置。フォローが必要な場合、すぐに対応ができる。



男性職員用トイレ。ブースの仕切りの天井部分を開け、外光が空間の奥に届くよう配慮。



女性職員用のトイレ。ドアと床とのコントラストを強くして、落ち着いた雰囲気デザインのデザインに。

職員トイレと並んで設置された多機能トイレ。腰高まである板張りが温かい印象を作っている。



東部小学校は、老朽化が進んでいたため、計画の中でもいち早く建て替えをすることになりました。今後建て替えをする小学校のモデルという位置づけです。工事は2013年6月からスタート。3期に分け、仮設校舎を建てて教室を移動し、旧校舎を壊して、新校舎を建てていきます。14年の秋に1期目の工事

豊川市では2012年から学校の環境改善に注力し、特に14年度からは、7年かけてトイレの改修を行う計画です。子どもたちの教育にとって、環境改善が欠かせないとの考えからです。トイレは床の乾式化と大便器の洋式化を改修の柱としています。

### 新校舎から卒業させるため夏休みに引越す

のよさを追求しています。「古く汚れたトイレでは、児童だけでなく先生もストレスを感じます。そのストレスを軽減したり妊娠中の先生方のトイレの不安をなくすため、職員用のトイレにもコストをかけました。環境を変えることで先生方がいい方向に変われば、児童も変わりますからね」(塩野谷さん)

DATA

- 竣工年月 / 2014年8月(第1期)
- 所在地 / 愛知県豊川市三谷原町石坪1番地の1
- 児童数 / 480名(2014年)
- 施主 / 豊川市教育委員会
- 設計 / 鈴木健雄設計室
- 施工 / 波多野組

「和式便器が怖かったのか、以前はトイレが間に合わずに、失敗してしまう子がいました。洋式になった今はありません。今後は、乾式になったので、職員もメンテナンスの方法を学び、それを子どもたちもしっかりと伝えて、維持していければと思っています」(竹田校長)

「工事が終わる直前の夏休み中に、教職員がダンボール500個ほどの荷物を梱包し、新校舎へ引越しをしました。工事中のため冷房も使えず、トイレも仮設といった状況でした。ですが、プレハブで授業を受けていた6年生をどうしても新校舎から卒業させてあげたかったので、教職員も協力して夏休みの作業を進めました」(同校・竹田校長)

新しい校舎やトイレは先生や児童たちからも大好評です。「和式便器が怖かったのか、以前はトイレが間に合わずに、失敗してしまう子がいました。洋式になった今はありません。今後は、乾式になったので、職員もメンテナンスの方法を学び、それを子どもたちもしっかりと伝えて、維持していければと思っています」(竹田校長)

「工事が終わる直前の夏休み中に、教職員がダンボール500個ほどの荷物を梱包し、新校舎へ引越しをしました。工事中のため冷房も使えず、トイレも仮設といった状況でした。ですが、プレハブで授業を受けていた6年生をどうしても新校舎から卒業させてあげたかったので、教職員も協力して夏休みの作業を進めました」(同校・竹田校長)